



第5回 上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議

駅周辺公共空間及び新幹線駅舎デザインの基本的な考え方について

平成 22 年 5 月 20 日

上 越 市

1. これまでの検討経緯

①上越市及び駅周辺地区の状況

- 概況**
- 気象や地形がもたらす豊かな自然環境
 - 広域圏との交通ネットワーク
 - 長い歴史に育まれた生活文化
 - 定住人口増加や少子化対策の必要性

- 地域資源**
- 全国レベルの知名度を誇る歴史（妻太古墳群、上杉謙信公）
 - 妙高連山をはじめとする自然環境
 - 雁木に代表される雪国文化、助け合いの心
 - 全国区のサクラの名所（日本三大夜桜）
 - 豊富な資源、先進性

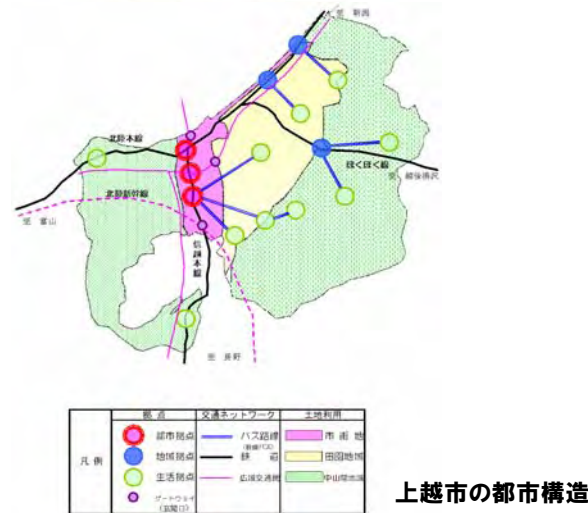
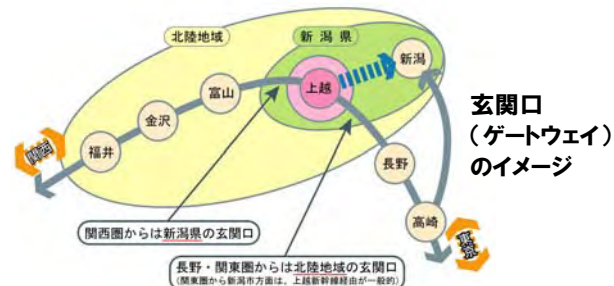
②上位計画

新駅ならびに新駅周辺地区の役割

- 上越市の活性化へ寄与（玄関口、交通の結節点、観光の基点）
- ホスピタリティ提供のための利便性に加えて、環境、景観に配慮
- 直江津・高田など既成市街地との連携

上位計画における方向性

- **第5次総合計画**
ゲートウェイ（玄関口）：
来訪者をもてなすにふさわしい環境整備、交通施設（駅、駐車場等）の整備、良好な住環境の整備
- **上越都市計画区域マスタープラン（新潟県決定）**
新しい玄関口として、商業・業務系を中心とした土地利用
- **上越市都市計画マスタープラン**
「上越の新たな玄関口として、周辺の自然環境や景観にも配慮した、質の高いまちづくり」
・上越の新しい玄関口周辺地区の都市づくり
・質の高い新都市空間の形成
・環境共生型都市の形成



③駅東西共通のデザインテーマ(地域からの要請)

→ 北陸新幹線(仮称)上越駅の整備に関する要望書(H16.4)

- (仮称)上越駅の位置づけ
＜長野・大都市とのゲートウェイ＞
- テーマ
新しい時代のまちの拠点として、ひとのための駅空間づくり
～地域の総合力を高める駅をめざして～
- コンセプト
■キーワード: 歴史の風格と未来
■イメージカラー: 青(紺碧)、純白、桜色、緑、黄金(稲穂)
■コンセプト: 新時代の駅「駅機能としての広場」
- 駅からの眺望
・妙高山を望む、桜を見る

→ 北陸新幹線新駅周辺整備等に関する和田地区住民の「意識調査」に基づく要望書(H20.3)

- ・駅周辺景観: 山並み、高い建物が制限
- ・駅前広場に必要施設: 駐輪場・駐車場、融雪施設
- ・周辺に必要公共施設: 物産センター、警察署
- ・駅舎形態: コンクリート構造と地場産木材の暖かみのある建築
- ・まちづくりに期待すること: 住み良い住宅地
- ・地場物産の紹介: 駅中施設
- ・上越のアピール: 自然景観
- ・地域のアピール: 上越米、遺跡
- ・駅名を考えるのに重んじること: 歴史、風土

- 妙高連山の懷に抱かれた、歴史と文化の息づく“城下町駅”
- 雪国上越の風景にとけこんだ“歴史駅”
- 日本海と対岸交流への拠点駅

駅だけではなく、地域全体のまちなみイメージを表現したものと捉える

④まちづくりビジョン(案)

◆新幹線新駅周辺地域の整備に関する整備目標
～上越市の新たな玄関口として、周辺の自然環境や景観にも配慮した
質の高いまちづくりの推進～

◆まちづくりビジョン(案)

百年まちづくり ～百年先も愛される 越後百会のまちづくり～

- むかえる：もてなしの空間づくり
- つたえる：地域らしさの活用
- みちびく：地域との連携強化
- つなげる：百年先を見据えたまちづくり

⑤新駅東西の機能分担、及び景観形成方針



◆駅周辺にぎわいゾーン

上越地域の新たな玄関口および地区の顔として、地区の環境と都市機能の調和を図り、緑豊かな広がりのある景観形成

西口: 自然と歴史の顔づくり

妙高山などの豊かな自然環境や釜蓋遺跡の歴史、くらし、文化を感じさせる景観形成

東口: にぎわいの顔づくり

上越の歴史や文化を要素としつつ、広域圏の玄関口として相応しい賑わいを感じさせる景観形成

⑥駅前空間の整備の方向性、共通キーワード及び基本的なレイアウト

◆駅前空間の整備の方向性

～ 使いやすさ(機能)と地域らしさ(個性)との両立 ～

◆共通キーワード

- 上越のシンボル「さくら」
- 「和モダン」なデザイン
- 「賑わい・躍動空間」づくり
- 「ユニバーサルデザイン」な交通空間
- 地場材の利用



2. 駅前広場及び街区公園の基本的なレイアウト

《第2回会議》

まちづくりビジョン 「百年まちづくり～百年先も愛される越後百会のまちづくり～」
 まちなみ整備イメージ 西口『静』、東口『動』

えちごひやくえ

《第3回会議》

駅前空間の整備の方向性 使いやすさ（機能）と地域らしさ（個性）との両立

《第4回会議》

共通キーワード

上越のシンボル「さくら」、「和モダン」なデザイン、「賑わい・躍動空間」づくり、「ユニバーサルデザイン」な交通空間、地場材の利用

西口（静）

- テーマ 「公園」
 - ・交通広場ではなく、公園ととらえる。
 - ・遺跡公園に最も近い新幹線駅という、全国に例のない特徴をいかした、ヒューマンスケールで使いやすく、ユニークな空間とする。
- デザインコンセプト
 - ・遺跡をイメージする「円」（曲線）
 - ・穏やか、明るさ、安らぎ、軽やか、光や水などの自然
- ロータリー
 - ・個性 ⇒ デザインコンセプト「円」を取り入れる。
 - ・機能 ⇒ 旅館バスを集中させ、東口と機能分担する。
- 街区公園
 - ・ロータリーの約1/3を多目的イベントスペース兼公園とする。
 - ・ここを街区公園と一体に「桜の森」とし、賑わいを生み出す。
- 自由通路
 - ・自由通路から広場に降りる階段をガラス等ですべて覆う。
 - ・眺望を確保し、ゆったりと山なみを眺める憩いの空間とする。
- 屋根（シェルター）
 - ・人が歩く動線上は基本的にすべてかける。
 - ・乗り降りの際に雪や雨に濡れないよう、かけ方を工夫する。
- 駐車場
 - ・屋根をかけるか立体駐車場とし、車の雨雪避けとする。
 - ・濡れずに駅に入れるよう、動線上にシェルターを設置する。
- シンボルロード
 - ・遺跡へつながる「さくら回廊」とする。
 - ・それぞれの交差点（遺跡の入口等）に「円」を取り入れる。
- 植樹
 - ・雪の山なみと淡いピンクの桜によって、最も美しい上越の春の風景のひとつ（ランドスケープ）を生み出す。
 - ・100年かけて育てていく、桜の風景を目指す。

東西駅前広場及び街区公園の基本的なレイアウト

東口（動）

- テーマ 「雁木」
 - ・170mの大屋根をかけ、日本最大の「駅雁木空間」を生み出す。
 - ・上越の暮らしの知恵「雁木」を、上越地域、新潟県、北信越地域の玄関口にふさわしい堂々としたデザインとして、また雨や雪に対応できる優れた機能として取り入れる。
- デザインコンセプト
 - ・雁木をイメージする「線」（直線）
 - ・重厚感、落ち着き、風格、シンプル、モダン、明暗のメリハリ
- ロータリー
 - ・個性 ⇒ 交通広場として機能に特化する。
 - ・機能 ⇒ 待合タクシーを集中させ、大容量の交通処理を行う。南を一般交通にし、公共交通との混同を避ける。
- 街区公園
 - ・多目的なイベントスペースとし、広場と一体の大屋根をかける。
 - ・冬季は雪を楽しむ空間、排雪スペース等として利用する。
- 自由通路
 - ・自由通路から広場に降りる階段をすべて構造物で覆う。
 - ・エスカレーター等で移動する間も濡れないようにする。
- 屋根（シェルター）
 - ・人が歩く動線上に、メインの雁木の大屋根をかける。
 - ・乗り降りの際に雪や雨に濡れないよう、かけ方を工夫する。
 - ・冬は、雁木のこげ茶と雪の白が調和し、雪を見て楽しめる。
- 駐車場
 - ・高架下利用を想定し、現時点では屋根を想定しないが、濡れずに駅に入れるよう動線上にシェルターを設置する。
- シンボルロード
 - ・高田市街地、その先へとつながる「さくらゲート」とする。
- 植樹
 - ・雁木のこげ茶と淡いピンクの桜によって、ほっとする空間を生み出す。（商業地の広告など、目隠しの役目も果たす）

西口のイメージ「静」

まちづくり全体のビジョン「百年まちづくり」

東口のイメージ「動」

“円”のモチーフと公園的整備
送迎用バスは西口に集中

- 釜蓋遺跡の環濠から、“円”をモチーフとして取り込んだ空間づくりとし、多くの植栽を配した公園的な空間形成を図る。
- 妙高方面の観光地からの送迎用バスは、距離・時間・混雑等の関係から西口利用が想定される。
- このため、送迎用バス用の駐車帯を西口に設け、東口には基本的に乗り入れさせない。
- ロータリーから直接公共駐車場に入れるが、動線の混乱を避けるため、駐車帯からロータリーに出ることはできない。

妙高、春日山、五智方面

釜蓋遺跡の供用(新幹線と同時)

- ガイダンス施設を整備予定

修景・イベントスペースとして活用

- ロータリー面積を最小限に抑え、余地を公園と一体的に整備。桜を植樹し、100年かけてつくるまちなみのシンボリックな場所として位置づけ。
- 五智、春日山、妙高など観光スポットが集中し、在来駅の乗口でもあるため、イベント開催頻度が相対的に高い見込み。
- 地形から回遊性あるイベント開催が可能。
- 2F自由通路レベルからは妙高山が展望できる。

展望・休憩スペースとして活用

- 妙高山～南葉山の山並みを展望できるスペースを2F自由通路レベルに確保。同スペースに在来線乗り換え時間を過ごすための休憩機能を設ける。

公園はイベントスペースとして活用

- 約2,000㎡。駅前広場からつながる駅雁木による空間の一体的利用
- 団体客利用、イベント等に対応したスペースを確保

西側とは供用時期のずれ

- 新幹線駅に在来駅を併設させた後、移設前の在来線の撤去工事を行うため、当ブロック以外、土地の供用が西側のH26頃より遅れる(おおむね平成29年頃)

- ビジネス客利用は東口がメインと考えられるが、東側への商業機能の配置は西側より数年遅れる見込み

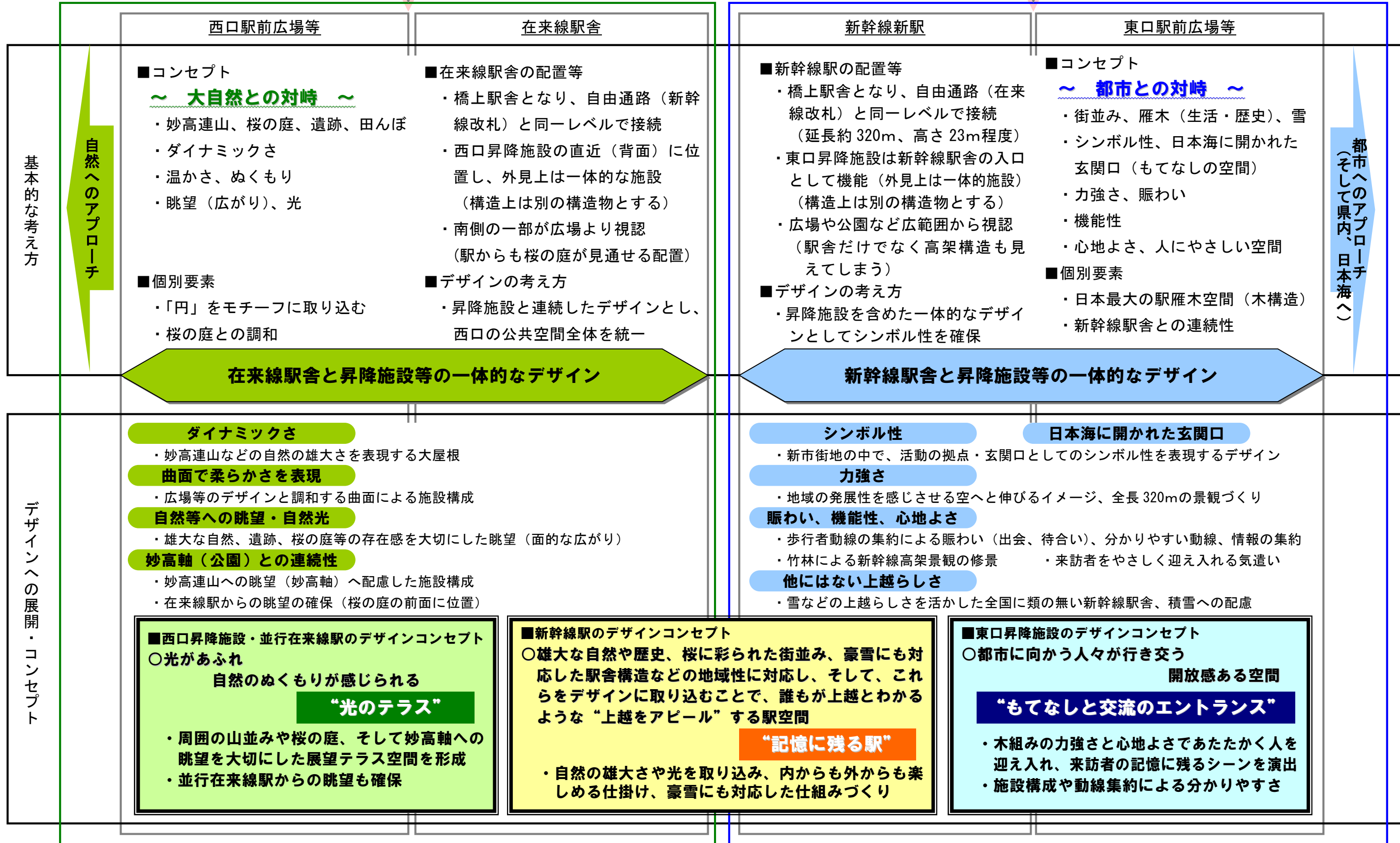
“駅雁木”による上越らしさ
交通機能に特化

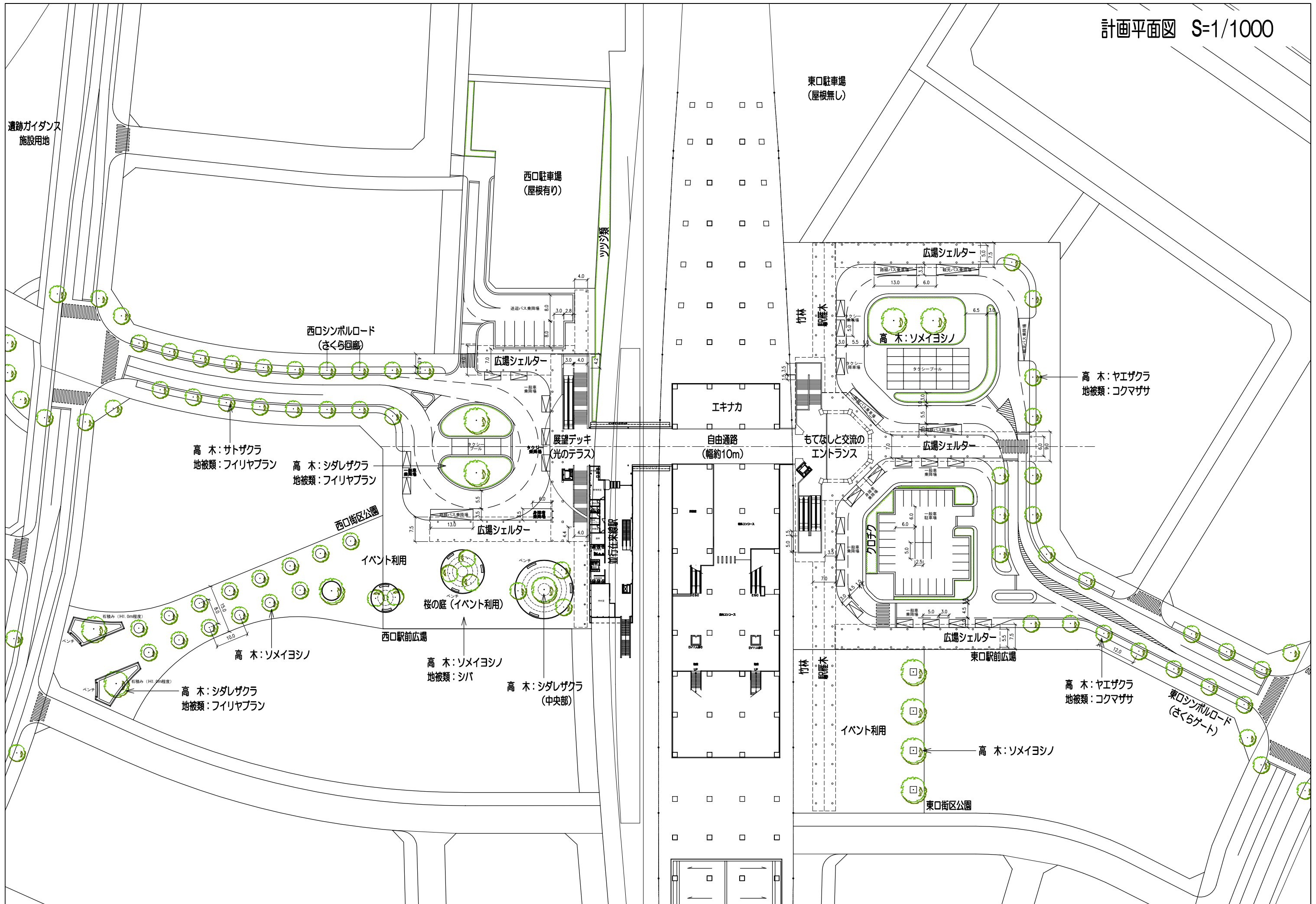
- 交通空間の中で上越らしさの象徴としての“駅雁木”空間を創出する。
- 周辺道路網等との連続性等を考慮し交通機能に特化させる。
- 交通の錯綜を回避するため、奥(北側)をタクシー・路線バス、手前(南側)を一般車に配置

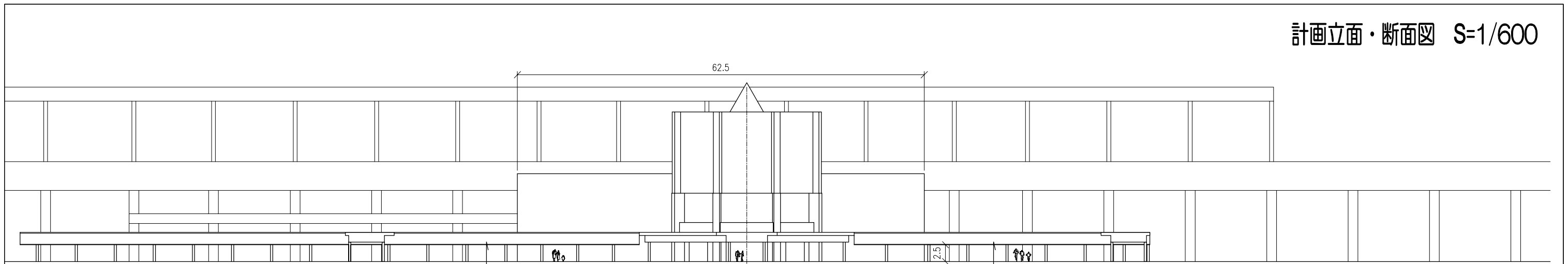
R18

3. 駅周辺公共空間及び新幹線
駅舎デザインの基本的な考え方

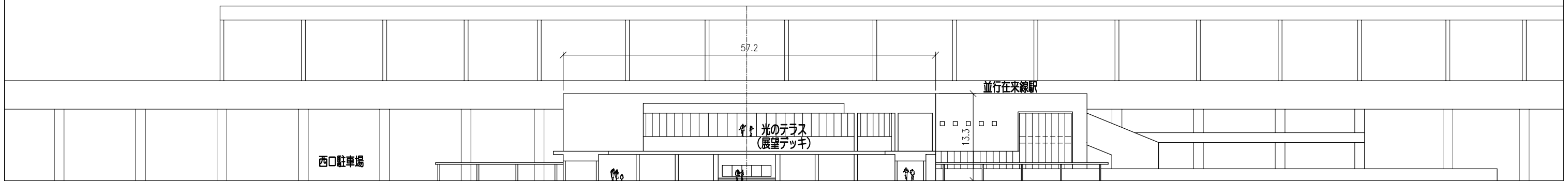
新幹線駅周辺地区全体を統一する考え方
～上越のシンボル「さくら」、「和モダン」なデザイン、「賑わい・躍動空間」づくり、
「ユニバーサルデザイン」な交通空間、地場材の活用～



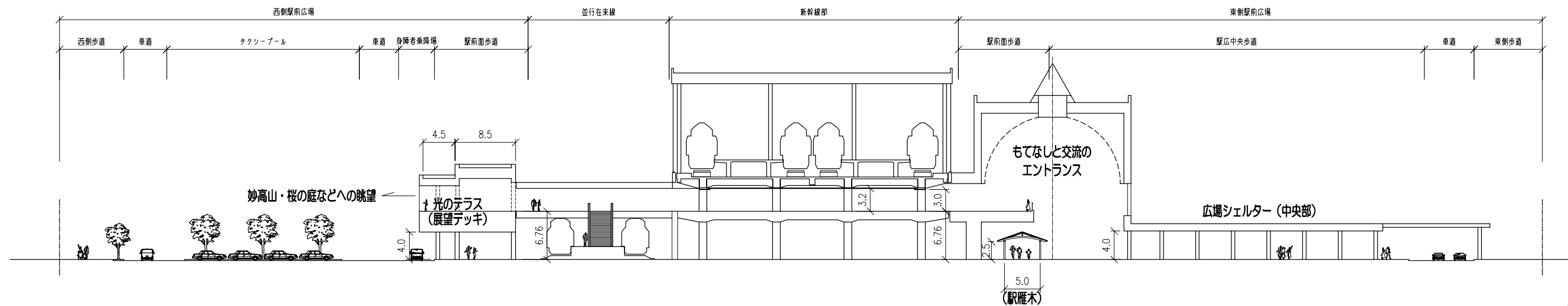




東口計画立面図 S=1/600



西口計画立面図 S=1/600



計画断面図 S=1/600